ご利用にあたっての注意

●調査番号　　SSJDA1386

●調査名　　　全国家族調査パネルスタディ (NFRJ-08Panel)，2008-2012

●寄託者　　　日本家族社会学会　全国家族調査委員会

**〇**提供データの形式について   
  
　データは、「.sav」「.csv」「.dta」の3種類の形式で提供しています。いずれもデータは同一です。

なお、「.dta」の変数名が「.sav」「.csv」とは異なる場合がありますので（使用できない文字記号があるため）ご注意ください。

「label.txt」で提供している変数名・値ラベルは、「.sav」「.csv」と同一です。

**○**提供データについて

　wideデータ（1386\_wide）とlongデータ（1386\_long）を提供しています。

以下に、各データの注意点を列挙していますので、分析の前によくご確認ください。

**○**wideデータについて（1386\_wide）

・wave1、2～4、5の間で、同じ変数でも対象外になっている人の範囲が微妙に異なる。w1で高齢票や若年票で尋ねていない項目があること、死別者に対して義父母のことを尋ねるかどうかがwave間で異なること、wave5では有配偶票と無配偶票を分けていないことなどが原因である。誤解を招くので、非該当コードを本来あるべき非該当8888（その質問ができないはずの人）と、調査設計上の対象外6666の2つにわけた。6666に入る人の範囲はそのwaveの調査設計によって異なるが、8888に入る人の範囲は基本的に一定のはずである（ただし、8888に入るかどうかを判定するための変数が測定されているかどうかがwave間で異なる場合はこの限りではない）。

・現在の従業上の地位について、wave2のみ、前問で「変化なし」だった場合に非該当としていたが、紛らわしいので前wave（w1）の値で埋め合わせている。従来からlongデータではそう処理されていたが、wideデータから修正することにした。

・同じ変数でもwave間でコードが異なる質問がいくつかあった。従来からlongデータでは別コードをあて直して統合していたが、紛らわしいのでwideデータからコードを修正した。コードを統合した変数は以下のとおり。

調査票種別（metpq09,……,metpq13）

1 '有配偶票（w2-4）'

2 '有配偶票（w2-4）'

3 '若年票（w1）'

4 '壮年票（w1）'

5 '高年票（w1）'

6 '共通票（w5）'

本人と配偶者の就業状況（rpwkst09,……,rpwkst13,spwkst09,……,spwkst13）

1 'ついている'

2 'ついているが休職中'

3 'ついていないが仕事を探している（w2-4）'

4 'ついていない（仕事は探していない）（w2-4）'

5 '今はついていないが、過去についていた（w1）'

6 '仕事についたことはない（w1）'

7 '仕事を探しているかは不明だが無職（追加コード）'

結婚時期、配偶者の生年の元号（rpmtgg09,……,rpmtgg12,rpmtgg\_3,spbtgg,spbtgg\_0,……spbtgg\_3）

1 '明治'

2 '大正'

3 '昭和'

4 '平成'

子どもの居住距離（c1plc09,……c3plc13）

1 '同じ建物内（玄関も同じ）（w1）'

2 '同じ建物内（玄関は別）（w1）'

3 '同じ敷地の別棟（w1）'

4 '15分未満（w1）'

5 '15分～30分未満（w1）'

6 '30分～60分未満（w1）'

7 '1時間～3時間未満（w1）'

8 '3時間以上（w1）'

9 '距離は不明だが別居（追加コード）'

11 '一緒に暮らしている（w2-5）'

12 '60分未満で行ける場所（w2-5）'

13 '60分以上かかる場所（w2-5）'

義父母の健在・死亡（flsl09,flsl13,mlsl09,mlsl13）

1 '健在'

2 '結婚前に死亡（w1）'

3 '結婚後に死亡（w1）'

4 '死亡（結婚の前か後かは不明）'

・去年と今年のイベント情報を統合して、wave間のイベントの有無を示す変数を作成した。基本的には、そのwaveの去年と今年にいずれかにイベントが起こっていれば、「あった」になっている。ただし、同じイベントについて、「前waveの今年」にイベントがあった場合には、調査より前のイベントとみなして「なかった」としている。

例）w2去年＝×、w2今年＝×、w3去年＝○、w3今年＝×　→　w3統合＝あった

　　w2去年＝×、w2今年＝○、w3去年＝○、w3今年＝×　→　w3統合＝なかった

この方式だと、複数回起こりうるイベントについて、生起を過少測定してしまう。とくに、その他親族の死亡や孫の誕生については、頻繁に起こるので注意が必要である。

・wave1と5の間できょうだいが亡くなっているケースが多いため、調査票原票の回答では1人目、2人目……のきょうだいがwave間でずれていることがある。データセットでは、これを同一人物になるように合わせた。w1で1人目のきょうだいはw5でも必ず1人目であり、2人目は必ず2人目である。たとえば、1人目のきょうだいがw5までに亡くなった場合には、コード7777をあてている。そのせいで下にずれて、w5で3人目より後になったきょうだいの情報（健在の中では3人目までに入るが、死亡を入れると3人目までに入らなくなったきょうだいの情報）は、別変数s4……、s5……として保存している。また、w5時に健在のきょうだいの中での順位を示す変数（s1odr、w2odr、……）を追加した。

・子どもが途中で亡くなったケースもわずかながら存在する（数ケース）。一応、きょうだいと同じ扱いにしている。したがって、wave間で1人目、2人目……の子どもは完全に同一人物に合わせている。そのせいで下にずれて3人目より後になった子どもはいない。

・年上の連れ子が途中のwaveで入り込んで、子どもの順位がずれるケースが1ケースだけあった（idpanel＝3003）。年齢順位では本来wave5の1人目に入るが、例外的に実子2人の下の3人目に入れることにした。

**○**longデータについて（1386\_long）

・大枠の変数の並び順を以下の順序に変更した。

　　wave間で変化を追える変動変数

　　準変動変数［※下で説明］

　　一時点でしか尋ねられていない変数

※準変動変数について

配偶者の出生年や結婚年などは、結婚が継続している限り同一の値を各waveに入れている。離死別で婚姻が終わった場合は非該当に変化させており、逆に途中のwaveで結婚した場合には、そのwave以降のみ値を入れている。w1時点からの結婚は、w1で取った情報を利用しており、w2以降での結婚は新婚票（および無配偶票の一部）での情報を利用している。

　新婚票で尋ねられている義父母の情報は、従来、配偶者情報と同様に準変動変数のように扱われていたが、wave5で義父母のことを尋ねたので、これを取り入れるとデータがかなり混乱する。longデータからは、新婚票による義父母の情報は除くことにした（wideデータには残っている）。longデータにおける義父母の情報は、純粋にw1とw5のみで構成されている（w2～5で継続的に尋ねられている「健康状態」は除く）。

・変数名は、変動変数をすべて大文字で表わし、準変動変数を先頭のみ大文字、一時点のみの変数をすべて小文字で表わすことにした。

・wave2からwave4にかけて脱落した対象者は、ケースのレベルで除去している。脱落の後に「復活」した場合は、復活した年に限りデータに含めている。その結果、Long形式データのケース数は、Wide形式におけるN×wave数（5）と一致せず、有効回答票数の総計と一致する。

・そのwaveで尋ねられていない変数については、基本的にすべてシステム欠損（ブランク）としている。w1においては、去年および今年のイベント生起、本人および配偶者の仕事の変化、家族観についての意見、健在の子ども人数、子どもの年齢・結婚、父母と義父母の健康状態、頼りにする人や機関、が尋ねられていないので欠損になっている。

・同じように、wave2～4で1回だけ尋ねられた変数は、他のwaveではシステム欠損（ブランク）としている。wave2の問3（婚活の評価）・問4（夫婦別姓に関する態度）、wave3の問4（子育てについての意見）、wave4の問4（東日本大震災についての意見）がそれに該当する。

・例外として、w1のみで尋ねられた変数と、w5のみで尋ねられた変数は、他のwaveでも欠損とせずにそのまま値をコピーしている。これは、あたかも「時間依存でない」とする扱いをデータ上ではおこなっているということになる。ただしその仮定がほぼ正しい変数（たとえば、w1の最終学歴、初職、w5の15歳時の家族状況など）もあれば、そうとは言い難い変数（たとえば、職種など）もある。利用には、注意が必要である。

**○**二次分析の結果発表について

　二次分析の結果を発表する際には、個票データについて以下の文を付することにより、**個票データの出典を明記**してください。

|  |
| --- |
| 〔二次分析〕に当たり、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJデータアーカイブから〔「全国家族調査パネルスタディ (NFRJ-08Panel)，2008-2012」（日本家族社会学会　全国家族調査委員会）〕の個票データの提供を受けました。  The data for this secondary analysis, "**name of the survey**, **name of the depositor**," was provided by the Social Science Japan Data Archive, Center for Social Research and Data Archives, Institute of Social Science, The University of Tokyo. |